

中津川遺跡（なかつがわいせき）

所在地：石岡市中津川字下富田前245番地ほか

調査期間：令和2年6月1日～令和2年9月30日

調査面積：2,969㎡

委託者：国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所

調査原因：国道6号千代田石岡バイパス建設事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（石岡事務所）

TEL:029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

1 遺跡の概要

中津川遺跡は、石岡市の南東部に位置し、恋瀬川左岸の標高約24mの台地上に立地しています。今回の調査は国道6号千代田石岡バイパス建設事業に伴うもので、調査区は遺跡の北西部に位置しています。

周辺には、舟塚山古墳や茨城廃寺跡といった著名な史跡や、当財団が調査を行った田崎遺跡・田島遺跡・楨堀遺跡などがあります。谷を挟んだ東側には、同じく当財団が調査を行った東田中遺跡があります。中津川遺跡のこれまでの調査では、縄文～平安時代の竪穴住居跡や中世・近世の屋敷跡・墓域・道路跡などが確認されています。



中津川遺跡の立地と周辺の遺跡
（「いはらきデジタルマップ」より）

2 調査の成果

今回の調査（第6次）では、縄文時代前期（約6,000年前）と縄文時代中期（約4,400～4,000年前）の竪穴住居跡や土坑、縄文時代の集石遺構や遺物包含層、平安時代（約1,100年前）の火葬墓や溝跡等を確認しました。

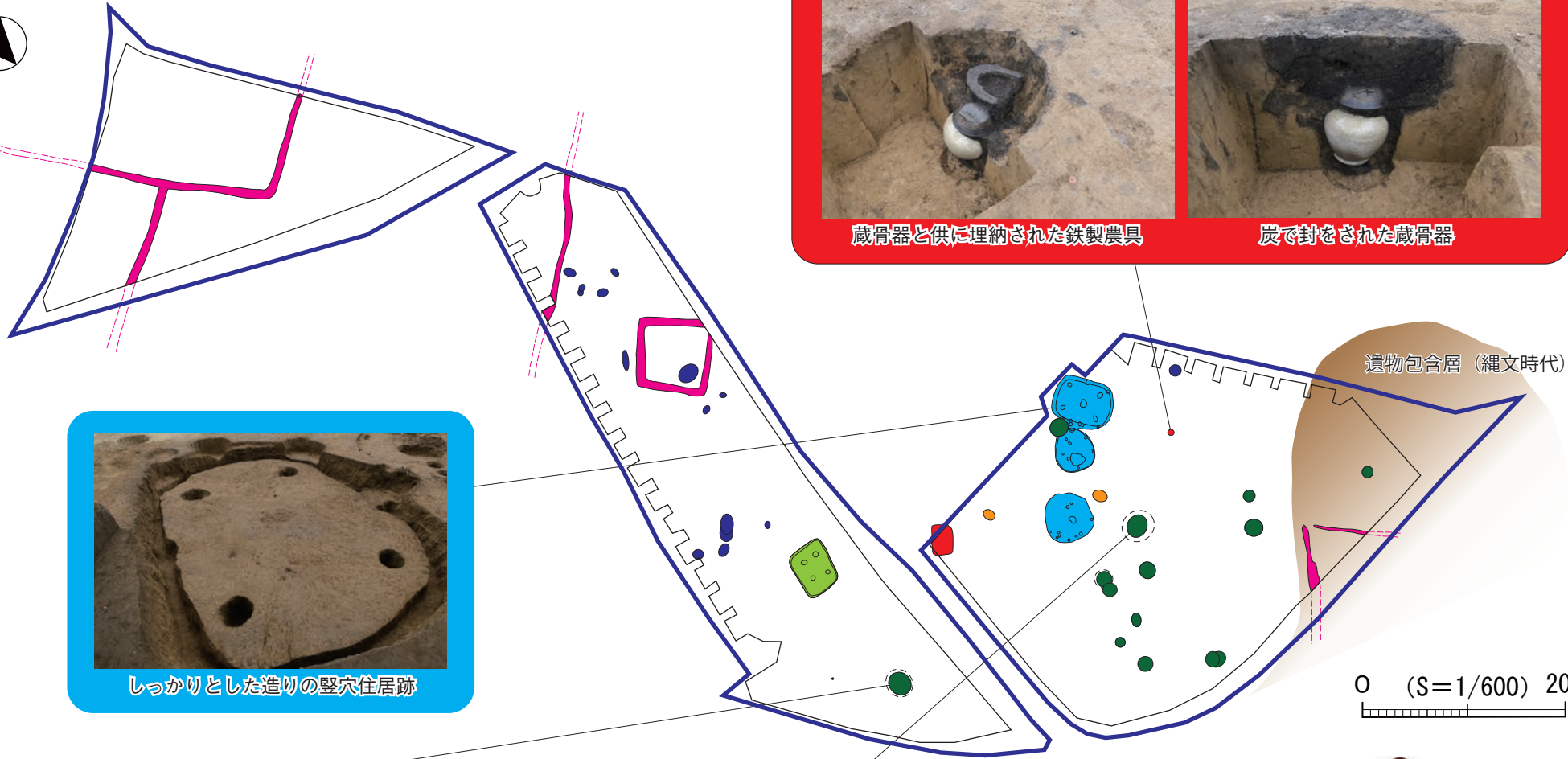
縄文時代前期の竪穴住居跡を3棟確認し、そのうち1棟はしっかりとした造りで、ムラの中心的な建物であった可能性があります。同時期のムラの跡は、ここから約1km離れた楨堀遺跡でも確認されています。また、縄文時代中期の竪穴住居跡は、昨年度確認したものよりもやや古い時期のものでした。

平安時代の火葬墓からは、東海地方産の灰釉陶器の壺を火葬骨の容器とし、土師器の坏を蓋として転用した蔵骨器が出土しています。蔵骨器の上からは、鉄製の鋤先が出土しました。そのほか、東西・南北を軸とした溝を調査区内の数か所で確認しました。

また、今回同時に進めている東田中遺跡の貝層の整理作業では、現場で回収した貝層から貝や骨を1点1点確認し集計する作業で、貝輪・貝刃・貝玉・釣針等の貝製品や骨角器を確認しています。



東田中遺跡の貝層から確認された遺物
（上段：貝玉 下段：釣針）



蔵骨器と共に埋納された鉄製農具



炭で封をされた蔵骨器



しっかりとした造りの竪穴住居跡



土坑の底から出土した縄文土器



縄文時代中期の土坑の調査

- 墓 (平安時代)
- 溝跡 (平安時代)
- 竪穴住居跡 (縄文時代中期)
- 土坑 (縄文時代中期)
- 竪穴住居跡 (縄文時代前期)
- 土坑 (縄文時代前期)
- 集石 (縄文時代)

0 (S=1/600) 20m



この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。